

Rihoの ドイツ便り

生ごみは分別回収 資源として広範囲で活用

No.53

ドイツでは家庭ごみ、紙、瓶、プラスチック類（包装容器など）、そして「生ごみ」を分けて回収しています。

プラスチック類は製造者責任で無料で回収、紙や瓶も資源ごみなので無料ですが、家庭ごみと生ごみは有料です。

私の住む北ドイツのハノーファー市は人口53万人。周辺市町村を含めて120万人地域が一体となり、第三セクターのごみ処理会社AHA(アハ)を設立してごみ処理を実施しています。

同地域では、2009年に回収された生ごみは一人当たり26㎏でした。家庭菜園や広い庭から出る伐採した枝や大量の芝などいわゆる「緑のごみ」は別途72㎏となりました。2008年はそれぞれ28㎏、75㎏、2007年は30㎏、81㎏でしたから、減少傾向にあります。

ここで言う「生ごみ」とは、野菜や果物の残り、コーヒーフィルター、卵の殻、キッチンペーパー、切り花や観葉植物の枯れたもの、雑草、枯葉などを指します。料理の残りや、塩のかかったもの、パン、ネコのトイレなどは含まれません。

アハでは、コンポストの日と称して年に一度、コンポストや生ごみについての説明会を各地で開いています。市民はまた年に一度、1㎡分のコンポスト肥料を無料でもらうことができます。生ごみの回収料金は80ℓのコンテナで、2週間に一度の回収でひと月8,45ユーロ(930円)。普通の家庭ごみが同じ条件で10,85ユーロ(1200円)ですから、少し安めに設定されていることとなります。

私の住むアパートの建物には10世帯入っていますが、家庭ごみのコンテナは80リットル2つで毎週回収、生ごみは80リットル1つで2週に一度の回収になっています。隣の建物のアパートは生ごみを分別しておらず、120リットルの家庭ゴミ用コンテナ2つで対応しています。同じ世帯数なのに、料金はうちより25%増しです。

生ごみはバイオガス発電の燃料としても注目を集めていて、例えばフランクフルト郊外のアシャッフェンベルグ市では、500万ユーロ(5億5000万円)かけてバイオガス発電装置を建設中です。バイオガスは発電だけでなく、天然ガスと混ぜて暖房や温水器に利用したり、天然ガス自動車の燃料にもなるなど、広範囲にわたる生ごみの活用が期待されています。

参照 <http://www.aha-region.de/>

田口理穂 ごみかんドイツ特派員

ドイツで子育て♪



2007年10月に男の子が生まれ、ドイツで子育てしています。

先日、保育園で個人面談がありました。園ではお昼を食べ終わったら手を洗い、昼寝の際、自分で脱ぎ着するのですが、2歳8ヶ月の明は「アジア人の特性か、指示待ちで自分から動かない」とか。同じクラスのエレンちゃんのいいなりで、自分が何をしたいのか、自分の内なる声を聞いていないといわれました。おまけに、親と同じ部屋に寝ていると話すと「夫婦の時間はどうなるんですか」と心配される始末。

ドイツでは、2歳で「本当の自分」を要求されるのですね。着替えがゆっくりでも、女の子のいいなりでもいいじゃない、と楽観しているのですが…